

## 被爆体験証言集の朗読劇

### ●上演内容

- 1：被爆体験証言集の活動をしている人たちの物語のプレイバックシアター
- 2：被爆体験証言集シナリオの朗読劇（近年作成されたシナリオ）
- 3：被爆体験証言集記録部分の朗読劇（1995年ごろの記録）

### ●本企画テーマ

3つの世界をつないでいく

### ●企画全体図

本プロジェクトは、エフコープがこれまで行なっていた被爆体験証言集を活用し、被爆者・その周辺領域の人々の想いを伝え発信するものである。

エフコープが現在行なっている発信プロジェクトは、被爆体験証言集を本として発行することのみとなっており、本プロジェクトは新たな発信の手立てを生み出すものとして、継続性を持った内容として提案します。

発信の方法としては「演劇」を活用します。演劇においては、役を演じるという部分が必要となります。戦争を経験していない人が増えてくる中、どのように戦争に対する想いを次代へ引き継いでいくかは重要な問題と捉えている。現在は被爆体験者への聞き書活動はできているが、10年先では戦争体験者がこの世からいなくなり、聞き書活動ができなくなることも想像される。

現在はまさにその端境期であり、被爆当時10代・20代で経験した人たち、被爆当時子供だった人・胎内被爆者、被爆二世といった、3つの層が入り混じっています。

この状況は、現在にしか存在しない唯一の状況です。3つの層が重なり合い伝え合うことを通して、戦争という記憶を、遠く手の届かないものにするのではなく、一つ一つ手渡しするかのよう丁寧なバトンを繋いでいくことを目指します。

## ●各世界の上演方法

### 第一の世界：体験を聞く人たち

・方法：聞き書体験の報告会を行う。

・内容：被爆者への聞き書作業を行なっているボランティア団体「たんぼぼのわたげ」の方々と、エフコープ篠栗町の方々の呼びかけで集まったボランティアスタッフの方々の想いをプレイバックシアターを活用した報告会を行う。

・メモ：具体的には、聞き書き活動をしている中で出て来たエピソードをプレイバックシアターで伝えていく。

①口頭で伝える、②劇にして伝える、③インタビュー形式～プレイバックシアターで伝える。この3つの方法を取り入れて行われる。

### 第二の世界：最新の聞き書き活動

・方法：被爆体験証言集シナリオのリーディング劇

・内容：たんぼぼのわたげが作成したシナリオを使ったリーディング劇を上演する。出演者はプロの俳優数名と、一般公募の参加者による。公募対象者はエフコープの組合員さんが中心となる。

・メモ：シナリオは、一般の方がご家庭や学校・公民館などの集いの場で、お互いに読み合うことで理解することを目指して作られています。そのため、リーディング劇にするときにはテキレジが必要となります。どの部分を残し、どの部分を改変していくかを通して他者と共有すべきことは何かを考えることが必要となります。

### 第三の世界：記録から見出す人の想い

・方法：被爆体験証言集の記録リーディング劇

・内容：エフコープが1995年より始めた被爆体験証言集の初期の記録を素材にしてリーディング劇を上演する。出演者は「2」と同様。

・メモ：聞き書活動を始めた当初のスタッフは現在おりません。ですので、記録から何を呼び覚まし、形にして、人に伝えるかを自分たちで考え・見つけ出す必要があります。この項目では、記録から抽出するものは何かを想像して見出すことが強く求められます。